

労働安全衛生 NGO による東日本大震災被災地における石綿対策			
ガイドラインステップ	キーワード (6 つ以内)	・東日本大震災 ・石綿 ・マッピング	・NGO ・気中石綿濃度測定 ・リスクコミュニケーション
5-8, 12, 13, 15, 16			
改善・取組みの背景と課題	<p>石綿は、日本では 1,000 万トンが輸入され、その 8 割以上が建材に使用され、それら石綿含有建材の大部分は未だ建物に残されている。1995 年の阪神淡路大震災では倒壊した建物に由来する石綿曝露によって健康被害が発生しているが、東日本大震災では巨大な津波による被害が極めて広範囲に及んだ。歴史的に石綿含有建材の津波による広範囲の被害は未経験であり、実態も不明な点が多い。また石綿含有建材は多種多様であると同時に、石綿含有の有無の判断は分析を経なければ分からない。さらには一般に石綿の危険性についての関心が低く、スレート板など身近に残された含有建材の石綿含有も知られていない。以上から労働者、住民、ボランティアなどが被災地での生活や労働を通じて石綿に曝露する可能性がある。私たちは労働安全衛生 NGO としての経験を活かし被災地での石綿対策に臨んだ。</p>		
改善・取組みの着眼点	<p>取り組みの着眼点は以下のとおり。津波による建物被害と石綿含有建材の状況を確認し、気中石綿濃度測定も合わせて、石綿による健康被害のリスクの特徴と大きさを把握すること。そのための調査に地域の人々の参加を呼びかけ、関心を高めること。その上でリスクコミュニケーションとして、得られた情報を地域へ返し、有効かつ合理的な対策を提案し、実行するための支援を実施し、石綿曝露を予防すること。</p> <p>当初は被災地全域で調査を行い、被災した石綿含有建材の状況を確認したが、範囲があまりに広いため焦点が絞れず、特に地域に根ざしたリスクコミュニケーションは困難と判断された。そのため 2011 年 12 月から対象を A 市に絞り、上記の着眼点で活動を進めた。</p>		
改善・取組みの概要	<p>調査【被災地の石綿含有建材の状況とそのリスクの把握】</p> <p>①ボランティアの参加による代表的石綿含有建材のマッピング (波板スレート 140 か所、吹付け材 14 か所を確認)</p> <p>②石綿飛散リスクの高い場所の特定と気中石綿濃度測定とリスク評価</p> <p>リスクコミュニケーション【調査結果の報告と対策の検討】</p> <p>①調査結果の報告会、住民向けのリーフレットおよびポスター作成</p> <p>②関係者との情報交換と対策への助言</p> <p>③地域住民やボランティアへのマスクフィット研修の提供</p> <p>対策【具体的な解決策の提言と実行】</p> <p>①提言の発表</p> <p>②行政とのリスクコミュニケーションを通じて、労働者への教育を提供</p>		

<p>写真・図表・イラスト</p>			
			
<p>効果</p>	<p>行政との情報交換とリスクコミュニケーション</p> <p>①市発注の建物解体工事に従事する予定の労働者の石綿作業特別教育を市が実施し、講師を派遣した。2012年度は271名が受講した。</p> <p>②A市、労働基準監督署、保健所などと協力し石綿作業主任者技能講習を開催し、50名が修了した。</p> <p>③現状の石綿含有建材除去の規制の課題が確認された。</p> <p>石綿含有建材除去時の飛散防止対策</p> <p>①石綿含有建材を破碎せずに撤去し、専用の袋で回収する事例。</p> <p>②飛散防止の散水、防じんマスクの着用などの現場での改善。</p>		
<p>このGPSの経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>被災地での石綿対策は復興の遅れや妨げになると考えている人は少なくない中で、人々がその重要性を知り、容易に取り組めるための創意工夫が重要であった。</p> <p>気中石綿濃度測定と合わせて、石綿含有建材の状況、作業の様子、労働者のヒアリングなどの複数の方法により実態を把握することが重要であり、そのために多くの人の参加が効果的であった。</p> <p>石綿のリスクの特徴を知り、危険な作業や場所を知ること、適切な作業と保護具の使用によりリスクを回避できる点を強調し、石綿含有建材の見分け方、マスクフィットなどを取り入れた対策指向の取り組みが重要である。</p> <p>この活動は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて行われた。</p>		
<p>参考資料</p>	<p>1)寺園淳,遠藤和人,山本貴士. 東日本大震災とアスベスト対策, 廃棄物資源循環学会誌 23(1):47-59, 2012/12/13</p> <p>2)外山尚紀. 被災地のアスベストの状況とばく露防止対策の重要性, 労働の科学 66(11): 27-31, 2011.</p> <p>2)永倉冬史,外山尚紀. 東日本大震災の被災地におけるアスベスト問題, 環境と公害 41(3): 51-56, 2012</p>		
<p>投稿者</p>	<p>外山尚紀</p>	<p>e-mail</p>	<p>2012年12月18日</p>

